No98　　作業学習の課題

2021年12月24日作成（2024年12月20日一部改訂）　　**義髙　亙**

〇特別支援学校の作業学習

山形県内最初期1964年に上山高等養護学校は当初漆山にあり、山形養護学校と呼ばれ肢体不自由養護学校でした。

。昭和49年（1974）には現在の名称、知的障害対応の上山高等養護学校となり、自立のための作業学習が確立されました。

現在の栽培･木工･陶工･家庭（洋裁）の作業はこの時点で確立されたと聞いています。

半世紀前　1970年代の社会情勢が全く違う情勢中での確立されました。全国的にも作業学習の基礎はこの時点で確立されたようです。しかしこの半世紀社会情勢は激変しました。農業従事者も十分の一まで減少しました。作業で社会参加を行う事情は半世紀前とは違います。

作業は自立のためです。社会で生かせる職業技能を身につけるための活動です。

その昔は特殊学級教科では職業とも呼ばれた項目です。

社会情勢に合わせて柔軟に活動設定すべき学習でしょう。

〇作業について高等部設置の機会

その作業について全県で検討する機会がありました。

それは1993年新庄養護学校、鶴岡新庄養護学校、米沢新庄養護学校で高等部設置される機会です。義髙は検討段階で新庄養護学校勤務でしたので、議論に参加しました。

この段階の議論は二つの方向性がありました。

一つは現状の設備、教員の指導経験を生かす、という方向

もう一つは社会情勢に合わせて作業内容を精査すべきという方向です。

〇作業内容と社会科の関係

新庄養護学校では

作業内容固定化の事情（1993年高等部設置検討）

･指導者の技能：現状の作業学習で指導者の経験とノウハウが揃っている。新たな作業には教員の研修が必要になる。

･学校組織：現状の作業活動の運用方法が熟知されている。

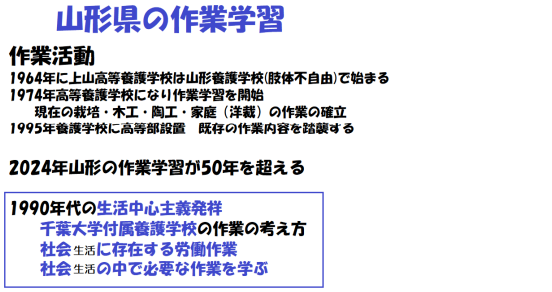
･設備：現状の作業の設備が充実している。

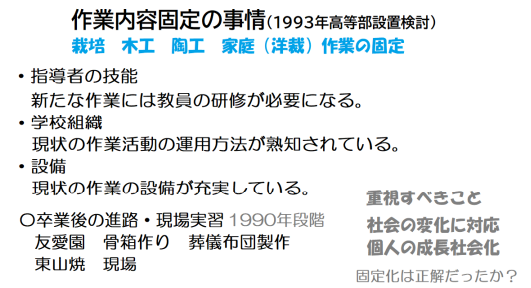
という方向でした。

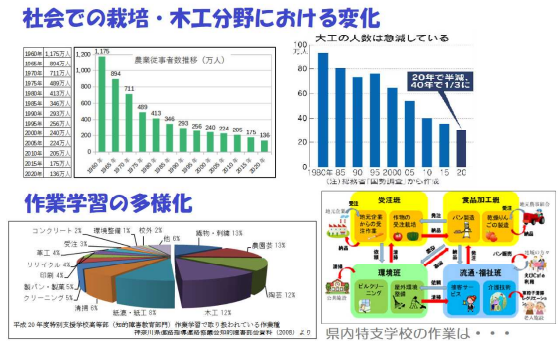
社会情勢を考慮して対応すべきである。という方向についてです。

その時代の新庄養護の作業は友愛園での現場実習を強く意識していました。年に一度　同じ市内の友愛園に現場実習に行って自立のための準備を行っていました。

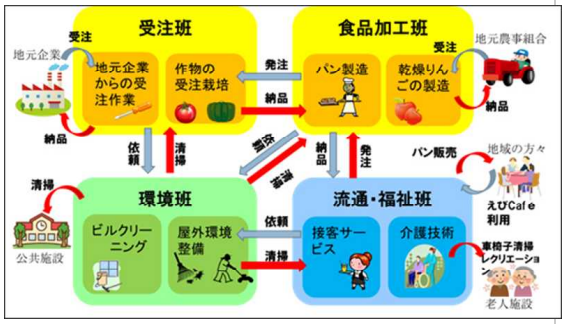
それまでは友愛園では骨箱制作と葬儀の際の布団製作が多い状態でした。







もう一つの実習先として東山焼の工房がありました。
なので木工班と家庭班、そして陶工班の作業は実習先･進路先を意識した作業内容であったと思えます。
しかし友愛園の作業も骨箱制作と布団製作の注文が減ってきていました。東山焼工房以外の実習先も検討していました。
社会で必要な作業内容が変化する可能性も議論しました。
　結論として減少しているとは言え、まだ現在の作業班の作業は必要である、という総論でした。
高等部設置以降は、進路先や社会で必要な活動の変化をにらんで作業内容を変えていく、という結論を出した覚えがあります。
〇それから３０年
　それから３０年以上の年月が経過しました。特別支援学校作業内容はどのように変化しているのでしょうか。
かつては栽培、木工、陶工、家庭（洋裁）といった作業が大半でした。
ですが、社会は大きく変化しています。
近年、山形県内でも柔軟に作業内容を拡張する学校があります。
近年はオフィスの清掃や軽作業などが増えています。その状況を反映してビルサービスでの作業活動をしている県内の学校もあります。また茶菓の提供サービスの現状も考慮すして、コーヒーの焙煎や茶菓サービスの作業内容を加える学校もあります。
作業学習は、子どもの実態と社会の変化に応じて作業内容を変えていく学習だと思えます。



END